

用語解説

用語解説

語句	説明
あ	
アセットマネジメント	水道における「アセットマネジメント（資産管理）」とは、水道ビジョンに掲げた持続可能な水道事業を実現するために、水道施設の特徴を踏まえつつ、中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化した実践活動を指す。
RC（アール・シー）	鉄筋コンクリートの略であり、配水池等の構造物の形式の一つ。
一日最大給水量	年間の一日給水量（ m^3 /日）のうち最大のもの。
一日平均給水量	年間の総給水量（ m^3 ）を年日数で除したもの。
一日平均有収水量	年間の総有収（使用）水量（ m^3 ）を年日数で除したもの。
塩化ビニル管	塩化ビニル樹脂を主原料とした水道用管。耐食性、耐電食性、施工性に優れている反面、衝撃や熱に弱い特徴を持つ。
塩素消毒	原水に消毒のための塩素を加えるだけの浄水処理。 水源水質が清澄な場合に採用される処理方法。
応急給水	地震等により水道施設が破損し、水道による給水ができなくなった場合、拠点給水、運搬給水及び仮設給水などにより給水すること。
応急給水拠点	水道による給水ができなくなった場合の給水基地となる場所。浄水場の配水池、耐震性貯水槽、応急給水用水源（井戸）のある場所を応急給水拠点としている。
応急復旧	地震等により水道施設が破損して給水ができなくなった場合、早期に給水を再開するために、破損部分を復旧すること。
か	
カビ臭	水道水の臭気の一つ。ダムや湖沼等に生息する藻類等がつくる発臭物質。
カルキ臭	水道原水中のアンモニア性窒素と殺菌・消毒用塩素が反応し、生成した結合塩素で、臭気が強くなったもの。
機械・電気設備	浄水場にある各種施設を分類するための用語。 浄水場のポンプ設備、次亜塩素素注入設備、受電・配電設備、自家発電設備等の総称。
企業債	水道事業において、建設、改良等の費用に充てるために国等から借りた資金。
給水原価	有収水量 $1 m^3$ 当たりの給水にかかる費用（ $1 m^3$ を使用して頂くために係る費用）。
供給単価	有収水量 $1 m^3$ 当たりの収益。
緊急遮断弁	地震や水道管の破裂等の異常を検知すると、自動的に緊急閉鎖する機能を持った弁。主に配水池に取り付け、災害時の水道水の流出を防ぐ。貯えた水道水は応急給水に利用される。
繰入金	地方公営企業は独立採算制を経営原則としているが、行政的経費及び不採算経費について一般会計が負担する経費。
クリプトスポリジウム	孢子虫類に属する病原性の原虫の一つ。塩素に抵抗性があるため、水道に混入した場合は塩素消毒で除去できない。
欠損金	収納が不能となった金額。
減価償却費	固定資産の減価を費用として毎年計上する処理する費用で、この処理により毎年計上される固定資産の減価額。
建設改良積立金	地方公営企業における任意積立金の一つ。建設又は改良工事等を行うための財源として充てる目的で利益に応じて積み立てる積立金。議会の議決を経て積み立てる（地公企法32条2項、地公企令24条4項）。
建設副産物	工事により発生するコンクリート塊、アスファルト塊、土などのこと。建設副産物は再利用、埋め立て材などの適正な処分が必要とされる。
鋼管	強度に富み伸縮性も大きいため、大きな内・外圧に耐えることができ、軽量で加工性も良い水道用管。錆びやすいため防食塗装が必要となる。

語句	説明
高級鑄鉄管	水道用管として、ダクタイル鑄鉄管が開発される前に用いられていた鑄鉄管。普通鑄鉄管よりも鋼を配合することにより強度を向上させたもの。
固定負債	1年以後に支払わなければならない負債。
構造物	浄水場にある各種施設を分類するための用語。 塩素接触池、浄水池、配水池などの総称。
さ	
災害時用給水栓	災害時等の応急給水において、配水池から直接給水するための給水栓。
残留塩素	水に注入した塩素が、消毒効果をもつ有効塩素として消失せずに残留している塩素のこと。水道法施行規則において給水栓水の残留塩素濃度遊離塩素0.1mg/ℓ以上とされている。
次亜塩素	水を消毒するために注入する塩素剤の一つ。
自家発電設備	電力会社から供給を受ける電力とは別に、停電時などに浄水場内で必要な電量を自前で賄うための発電設備。
資機材	震災等で管路が破損した場合、復旧に必要な材料(管など)や工事に必要な機械。
色度	水の色の程度を数値で示したもの。水道水質基準において5度以下と定められている。
自己資本金	地方公営企業における自己資本金には、固有資本金(企業開始時の一般会計からの引継資本金)、固定資産の取得に充てるために一般会計からの出資金として繰り入れられた繰入資本金及び営業活動などによって得られた剰余金を固定資産の取得を通じて組み入れる組入資本金がある。
資産	水道事業が有する財貨及び権利で、固定資産、流動資産、繰延勘定に区分される。
資本的収支	収益的収支及び支出に属さない収入・支出のうち現金の収支を伴うもので、主として建設改良及び企業債に関する収入及び支出である。
収益的収支	水道事業の経常的経営活動に伴って発生する収入とこれに対応する支出。
重金属	一般には比重が4～5以上の金属の総称である。 水道水質基準のカドミウム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、六価クロムを指す。
浄水(施設)	原水を飲用に適するように処理すること(処理する施設)。
上水道事業	給水人口が5,001人以上の水道事業。
集中監視	遠方にある施設を、監視制御場所から監視及び操作設備によって監視すること。1か所の監視制御場所から複数の施設を管理することができるため、今日の施設管理では欠かせない管理方法。
消毒副生成物	塩素消毒によって、塩素と水中の有機物が反応してつくられる物質の総称。
剰余金	資本金の額を超過した部分を意味する。営業活動によって獲得した利益を利益剰余金と呼び、資本金に属するもの以外の資本取引によって事業内に留保されたものを資本剰余金と呼ぶ。
水頭	水圧を水柱の高さmで表現したもの。建物の2階部分に蛇口を設置する場合の水道本管の圧力は15m水頭が必要とされる。
水質検査計画	水質管理を効率的・合理的に行うための計画。水質検査計画には、検査項目・頻度・検査地点・検査主体等の基本事項とその考え方を盛り込むこととされている。
水道事業ガイドラインの業務指標(PI)	日本水道協会が、国際規格であるISO/TC224(水道サービスの評価に関するガイドライン)に基づいて、国内の水道に関する標準規格となる137指標を定めたもの。水道事業者が自分の事業活動を定量化して、評価しやすくすることにより、目標や施策の決定、説明責任の遂行等に用いるもの。
水道水質基準	水道法により規定される水質基準であり、水道水が備えなければならない水質の要件。

語句	説明
水道ビジョン	平成16年6月に厚生労働省が策定した今後の水道の目標や、施策を明らかにしたもの。
ステンレス管	耐食性にすぐれ、高温・低温及び振動・衝撃に強い水道用管。高価。
石綿セメント管	石綿繊維（アスベスト）、セメント、珪砂を水で練り混ぜて製造した水道用管。アスベストセメント管、石綿管とも呼ばれる。長所としては耐食性、耐電食性が良好であるほか、軽量で、加工性が良い、価格が安い等があげられるが、アスベスト吸入による健康への影響が問題となり製造が中止されている。なお、厚生労働省ではアスベストは呼吸器からの吸入に比べ経口摂取に伴う毒性はきわめて小さいこと、また、水道水中のアスベストの存在量は問題となるレベルにないことから、水道水質基準を設けていない。
専用水道	寄宿舍、社宅、療養所等の自家用水道、その他水道事業の用に供する以外の水道であり、101人以上の給水人口もしくは一日最大給水量が20m ³ /日を超えるものをいう。
送水（施設）	水道水を配水拠点（配水池）へ送ること（送る施設）
損益勘定	経常的経営活動に伴う収支（収益的収支を参照）
た	
耐震性貯水槽	地震が発生しても破損しない耐震、耐圧設計となっている飲料水貯留施設。水道管内の水量や水圧の異常を感知して自動的に貯水に切替わる機能を持っており、ここに貯えた水道水は応急給水に利用される。
ダクタイル鋳鉄管	鋳鉄に含まれる黒鉛を球状化させ、普通鋳鉄管や高級鋳鉄管に比べ、強度に富んだ水道用管。施工性が良好であるため、現在、水道用管として広く用いられている。重量が比較的重い等の短所がある。
濁度	水の濁りの程度を示したもの。水道水質基準は2度以下。
地域水道ビジョン	水道事業者等が自らの事業の現状と将来見通しを分析・評価した上で、目指すべき将来像を描き、その実現のための方策等を示すものとして、平成17年10月に厚生労働省が水運事業者に作成を通知した。
中期経営計画	経営の健全化・効率化等を図り経営基盤を強化するため、今後の財政収支、定員管理及び給与の適正化の目標・取組等を明らかにし、平成16年4月に総務省が地方公営企業者に作成を通知しているもの。
直結直圧給水	3階建て以上の貯水槽水道の使用者に対して、使用者の必要とする水量、水圧が確保できる場合に、貯水槽を経由せずに配水管の圧力を利用して給水する方式。
帳簿原価	減価償却費など現金の支出を伴わない原価。
電子申請システム	従来は行政窓口へ郵送又は持参していた各種申請・届出を、インターネットを経由することにより自宅などのパソコンから申請・届出が行えるシステム。一部申請・届出について24時間受付を開始しており、今後も手続き内容を拡張する予定となっている。
導水（施設）	取水した水を浄水場へ送ること（送る施設）
な	
内部留保資金	減価償却費などの現金支出を伴わない支出や収益的収支における利益によって、企業内に留保される自己資金のこと。
は	
配水（施設）	水道水をお客様に配ること（配る施設）。
曝気処理	浄水処理の方法の一つ。水に溶けたガスを発散させたり、噴水やシャワーなどで、できるだけ空気に接触させる処理方法。
パブリック・コメント	基本的な政策を策定する際に、事前にその内容を公表して市民等からの意見を募集し、それを政策に反映させるとともに、提出された意見とそれに対する町の考え方を公表する一連の手続き。
PC（ピー・シー）	プレストレストコンクリートの略であり、配水池等の構造物の形式の一つ。
負荷率	一日最大給水量に対する一日平均給水量の割合を表すもの。

語句	説明
普及率	給水普及率であり、給水区域内人口に対する現状の給水人口の割合。
負担金	特定の公益事業に利害関係を持つ者に対し、受益の程度又は当該事業の程度に応じて、事業費の全部又は一部を負担する額。
平均有収水量	1日平均有収水量を現在給水人口で除した値。使用者1人の平均的な1日当たりの使用量。
ポリエチレン管	水素と炭素からできている自然に優しい素材の水道用管。従来は主に給水管に使用されていた。軽量のため施工性に優れ、さらに可とう性があるため地盤変動にも強い特徴に加え、近年は物理的強度が高くなったため、配水管に使用される。
ま	
無機物質	一般には炭素以外の元素を成分とする物質の総称である。本計画では、水道事業ガイドラインの業務指標（PI）を算出するため、水道水質基準のアルミニウム、塩化物イオン、カルシウム・マグネシウム等（硬度）、鉄、マンガン、ナトリウムを指している。
マイクロフロック方式	色度対策などのために、ろ過処理の前に凝集剤を注入し、微細なフロックを直接ろ過する方法。
や	
有機塩素化学物質	一般には、有機化合物の水素原子が塩素で置換された物質の総称であり、溶剤、塗料、合成樹脂、合成ゴム、農薬、医薬品等の原料となっている。本計画では、水道事業ガイドラインの業務指標（PI）を算出するため、水道水質基準の7項目と、水質管理目標の2項目の合計9項目の物質を指している。
有機物（TOC）	水中に存在する有機物中の炭素濃度のこと。
有機物質	一般には、炭素を含む物質の総称。 水道水質基準の陰イオン界面活性剤、非イオン界面活性剤、フェノール類、色度を指す。
有効率	有効水量を給水量で除した率。有効水量とはメータで計量された使用上有効とみられた水量である。
有収率	有収水量を給水量で除した率。
ら	
流量負荷	管路内を流れる流量。流量負荷が高いとは、管路の適正能力を超えた流量が流れていることを指す。
流動負債	1年以内に支払わなければならない負債。
連続自動水質監視装置	特定の水質項目を連続的に自動計測する計測器。 給水栓の水質検査箇所に設置し、毎日検査項目である濁度、色度、残留塩素を測定することができる。
漏水	地上に漏れ出して発見が容易な地上漏水と、地下に浸透して発見が困難な地下漏水がある。漏水量が減ると有効率が向上する。

